

日本経済新聞夕刊 連載

あすへの話題 第九回

心をこめて

元世界銀行副総裁

シンクタンク・ソフィアバンク シニア・パートナー

西水美恵子

「あすへの話題」 第九回 / 心をこめて

英領バージン諸島には、ひとつの礼儀がある。朝なら当然「おはようございます」で始めて、必ず「ご機嫌いかがですか」と続け、肝心なのはそのあと。しばらく世間話をする。話の種は何でもいいし、1分前後の会話で結構なのだが、ただ、心をこめて世間話をする。怠ると、礼儀知らずのよそ者になってしまう。散歩で出会った人、店の売り子、銀行の窓口係、友人でも見知らぬ人でも差別なしに、目と目を合わせて心をこめて……。易しそうで難しい。

この島国に移って間もなく友人が遊びに来た時。飛行機はずいぶん前に着いたのに、到着ロビーに現れない。案の定、税関にひっかかり、贈り物の包装を解け解かないで押し問答になったそう。いったいどこに泊まるのかと聞かれて家の名を言うと、役人の態度が一転。「ああ、背の高い英国人と日本人の奥さんの家だね。なに、迎えに来ている？ もたもたせず早く行きなさい！」。君たちは有名人と感心する友に、世間話のおかげと笑ったが、それ以来、関税はもれなく申告している。

車検の時。今朝はいい海風ですねと世間話を始めたら、運転免許を見た検査官が誕生日が同じだと喜ぶ。あれまあと、星座のことや同月生まれのマーティン・ルーサー・キングのことなど、話が弾んだ。さて車検だと車をじろりと睨んで、はいオッケー。検査なしですかなど問うのは野暮。あら、ありがとう、整備はきちんとしますからと礼を言う。「お互い信頼しあっていくことが、この小さな島国の和平に繋がるのだよ」と、検査官が微笑んだ。

人間、心をこめて信頼されたら責任感が湧く。車検の帰り道、日本も昔はそうだったのにと、ちよつぷり物悲しかった。

著者紹介

西水 美恵子（ にしみず みえこ ）

1975年、米ジョンズ・ホプキンス大学大学院博士課程修了後、プリンストン大学助教授（経済学）。80年に世界銀行入行。97年、南アジア地域担当副総裁に就任。2003年に退職。現在は独立行政法人経済産業研究所コンサルティングフェロー。07年に、シンクタンク・ソフィアバンク シニア・パートナー就任。著書に『貧困に立ち向かう仕事』。

著者へのご意見やご感想は、下記アドレスにお送りください。
個人メールアドレス nishimizu@sophiabank.co.jp

本稿は、西水美恵子氏が、二〇〇六年八月二十六日付の日本経済新聞夕刊に、寄稿したものです。

著作権は、著者に帰属しますが、配布は自由に行っていただけます。